

## 「(仮称) まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査及び意見募集」の構成 (案)

町田の新たな学校づくり審議会で実施を予定している「(仮称) まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査及び意見募集」の構成 (案) について下記のとおり提案します。

### 1 「(仮称) まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査」について

#### (1) 調査内容の構成

- ① アンケート調査のご案内
- ② 今後の町田市立学校を取り巻く環境変化
- ③ 「(仮称) 町田市新たな学校づくり推進計画」とは

#### 【以下設問】

- ④ 回答者の属性
- ⑤ 町田市立学校の新たな通学区域案

(アンケート調査において示す資料)

- 新たな通学区域案編成の考え方
- 2040年度の町田市立学校の新たな通学区域  
※学校統廃合を含めた見直し後の通学区域の姿を「堺地区」「忠生地区」「鶴川地区」「町田地区」「南地区」に区分して示します。
- 新たな通学区域案の実現に向けた通学区域の変更箇所

#### 【設問内容】

- ア 新たな通学区域案における配慮事項の有無 (選択)
- イ アで配慮事項がある場合の内容 (自由記述)

(お子さまが通学している学校が学校統廃合の検討対象の場合に回答)

- ウ 新たな通学区域における望ましい学校の位置 (選択)  
※適正配置の基本的な考え方 (子ども達の通学のしやすさ、ゆとりある学校施設を整備できる広さ・形状の用地、既存の学校施設の老朽化の状況) を踏まえて。
- エ 学校統廃合を行う場合の配慮事項の有無 (選択)
- オ エで配慮事項がある場合の内容 (自由記述)

#### ⑥ 町田市立学校の新たな学校づくりのあり方

#### 【設問内容】

- ア 児童・生徒が通学している学校施設の課題の有無 (選択)  
※「学校教育の場」「放課後活動の拠点」「市民活動の拠点」の視点から。
- イ アで課題があると回答した場合、その内容 (自由記述)
- ウ イの課題を踏まえて今後の学校づくり (学校施設整備) に期待すること (自由記述)
- エ 今後の学校施設整備を進めるうえで重要な環境変化 (選択)
- オ ウで重要だと考える環境変化に対応するために必要な学校施設整備の内容 (自由記述)  
※教員を対象とする調査では、学校施設機能 (例: 教室、職員室、体育館、運動場など) ごとに詳細に調査を実施

#### ⑦ その他のご意見・ご提案 (自由記述)

## (2) 調査票について

### ① 質問紙と回答方法（Web フォーム）のご案内の区分

調査票は、「質問紙（アンケートの質問が掲載されたもの）」と、「Web フォームからの回答方法のご案内」を区分して作成します。

### ② 質問紙の地区別の区分

質問紙には町田市立学校の新たな通学区域案を「堺地区」「忠生地区」「鶴川地区」「町田地区」「南地区」に区分して表示するため、調査票の分量が多くなることから、質問紙を地区別に作成し、各地区に所属する学校の保護者に配布します。

※他地区の新たな通学区域案は、町田市ホームページ上に掲載し、他地区の通学区域に関心をお持ちの方が確認できるよう配慮します。

### ② 書面による回答

Web フォームから回答することができない場合に書面による回答ができるようにするために、「Web フォームからの回答方法のご案内」の裏面を回答用紙とし、書面でも回答することができるよう配慮します。

## (3) 教員先行調査の実施について

教員を対象に実施する町田市立学校の新たな学校づくりのあり方に関する調査については、2020年7月に設置を予定している「町田市立学校の新たな学校づくりのあり方検討部会」で調査結果を活用するために、まちだの新たな学校づくり審議会委員のうち、教員代表、学識経験者の委員と調査内容を検討のうえ、5月から先行して調査を実施します。

## 2 「(仮称) まちだの新たな学校づくりに関する意見募集」について

アンケート調査時に配布する「Web フォームからの回答方法のご案内」をもとに、「意見募集のご案内」を作成し、意見募集時に対象者へ配布します。

※アンケート調査において質問紙に掲載している情報は町田市ホームページに掲載し、Web フォームからご意見をお寄せいただく際に参照できるようにします。

※Web フォームから回答することができない場合には、書面（任意の様式）でご意見をお寄せいただくことができるようにします。

保護者のみなさまのご意見をお聞かせください

## 町田市立小・中学校の教育環境に関するアンケート調査票

町田市教育委員会では、児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化※に対応しながら、児童・生徒がより良い教育環境で学ぶことができるようにするために、2019年8月に「町田市立学校適正規模・適正配置等審議会（以下『審議会』）」を設置し、子どもたちの教育環境を充実させるために必要となる適正な学級数・学校配置のあり方や、学校統廃合も含めた通学区域の見直しなどについて検討することを予定しています。

※児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化の状況については、2～3ページをご覧ください。

審議会では、PTA、町内会・自治会、町田市立小・中学校校長会の代表者と学識経験者で検討を進めていきますが、保護者のみなさまの考え方や意識を把握し、審議会での議論を充実させることを目的として、本アンケート調査を実施することにいたしました。

本アンケート調査の対象として、小学校は1～6年生、中学校は1～3年生の学校生活を経験している町田市立小学校の6年生及び町田市立中学校の3年生の中から約2,100人を選び、その保護者の方に回答をお願いしております。

調査は無記名であり、すべて統計的に処理するため回答者が特定されることはありません。また、他の目的には一切使用いたしませんので、お考えのままをご回答ください。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の主旨をご理解いただき、ぜひ調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

2019年6月  
町田市教育委員会

### ■ご記入いただくうえでの注意点

- ① 回答は、本調査票を持ち帰ったお子さまの**保護者の方が**お答えください。  
※小学6年生と中学3年生のおさまがおられるご家庭には、複数の調査票がお手元に届く場合があります。その場合には、小学生の保護者・中学生の保護者それぞれの目線から、お手元に届いたすべての調査票に回答ください。
- ② 回答は、各設問の枠の中からあてはまる選択肢について、該当する選択肢に○（まる）をつけてください。また、設問によっては文章をご記入ください。
- ③ 回答に迷う場合には、保護者の方の考えにできるだけ近いものをお選びください。
- ④ ご記入いただいた調査票は、無記名のまま7月5日（金）までに調査票を持ち帰ったお子さまの学級にご提出ください。
- ⑤ アンケートに関するお問い合わせは、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

#### 【お問い合わせ先】

町田市教育委員会教育総務課総務係  
電話：042-724-2172

### (参考 1) 町田市立小・中学校の児童・生徒数の推移と将来推計について

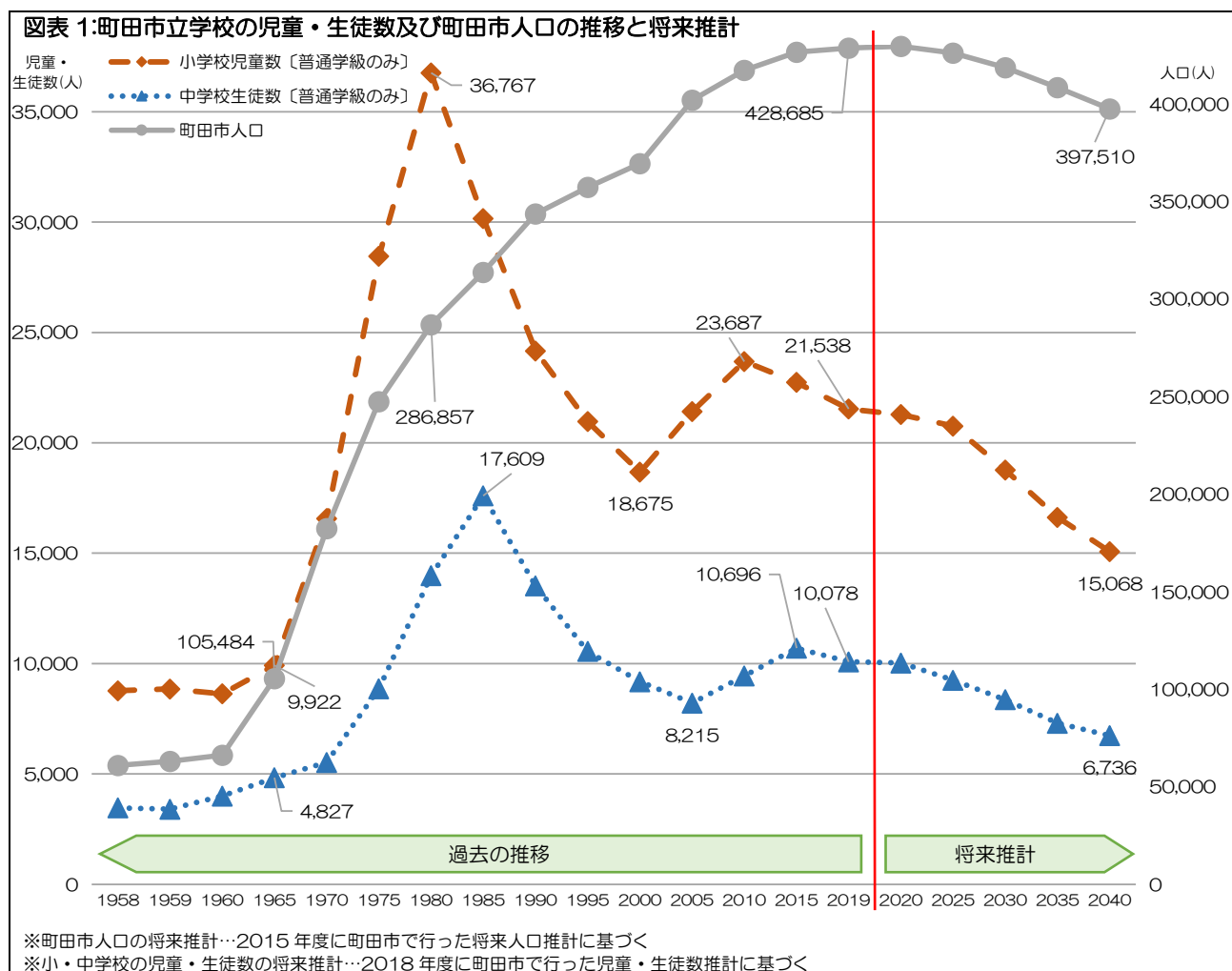
町田市は、高度経済成長期に大規模団地が建設されたことなどによって転入者が大幅に増加し、1960年代後半から児童・生徒数が大幅に増加しました。

その後、大規模団地の子どもたちが小・中学校を卒業したことで1980年代から1990年代にかけて児童・生徒数が大幅に減少したことから、2001～2003年度に44校あった小学校を39校に統廃合し、2010年度には中学校1校を閉校しています。

その一方、大規模開発によって特定の地域の人口が大幅に増加したことで2000年代に児童・生徒数が再び増加に転じたことから、小学校を2005～2010年度の間に3校、中学校を2012年度に1校開校しました。

しかし、出生数の減少（少子化）の影響によって小学生は2010年度、中学生は2016年度をピークに減少に転じ、2019年度の児童・生徒数は、小学生が約2.2万人、中学生が約1万人まで減少しています。

今後の児童・生徒数推計では、2040年度には小学生が約1.5万人（2019年度比：△30%）、中学生が約7千人（2019年度比：△33.2%）となることが見込まれていることから、人口減少社会における児童・生徒の教育環境について長期的な視点から検討する必要があります。



※2020年度以降の町田市立小・中学校別の児童・生徒数・学級数推計は9ページの補足資料をご参照ください。

## (参考 2) 町田市立小・中学校施設の老朽化について

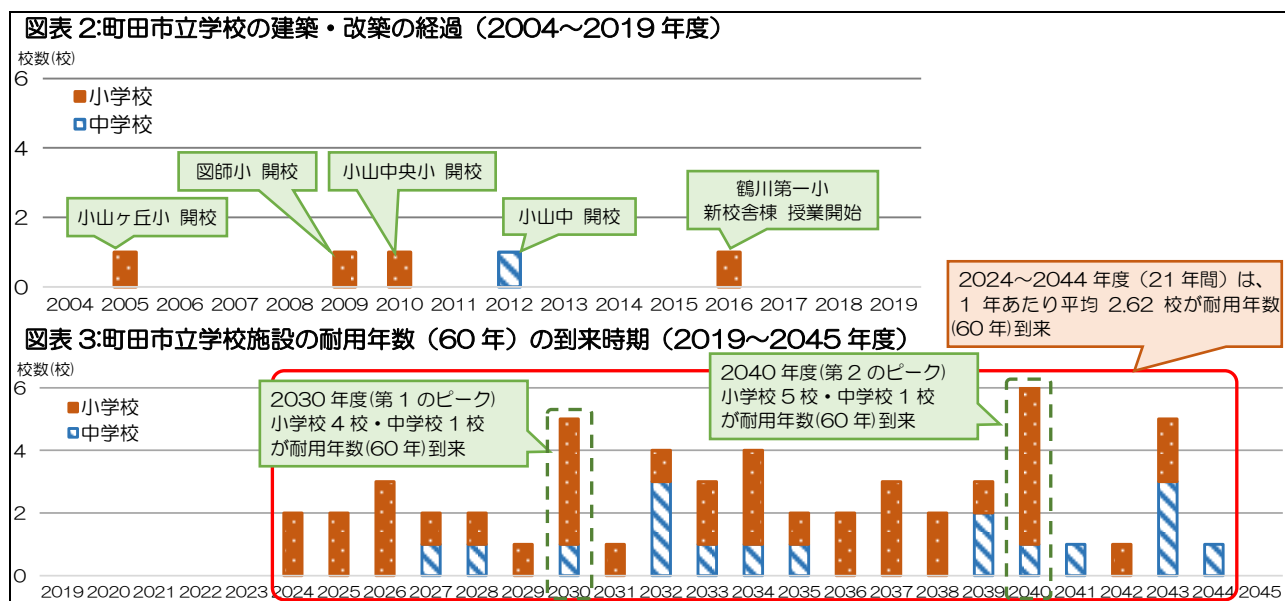
町田市では、高度経済成長期における児童・生徒数の大幅な増加に対応するために 1970 年代に建築した小・中学校施設の老朽化が大きな課題となっています。

文部科学省が 2013 年 3 月にまとめた「学校施設の老朽化対策について」によると、全国の公立小・中学校のうち、鉄筋コンクリート造（耐用年数 60 年）の学校施設を建て替えるまでの平均年数は約 42 年となっています。

しかし、町田市立小・中学校は、2019 年 4 月時点で築 42 年を超える校舎のある小・中学校が 62 校のうち 37 校あり、2024～2044 年度の 21 年間に、耐用年数である 60 年が到来する校舎のある小・中学校が 55 校あります。

この 55 校について、現在建て替えを進めている鶴川第一小学校（約 43.4 億円）、町田第一中学校（約 55.2 億円）と仮に同じ費用で建て替えた場合、2024～2044 年度の 21 年間で約 2,588 億円が必要になります。

この建て替え費用を削減・平準化しながら、将来にわたって子どもたちの学校における安全を確保するとともに、未来の教育活動に対応できるよう教育環境を充実させていくためには、長期的な視点から建て替えや改修する学校施設の優先順位を検討し、計画的に更新していく必要があります。



※町田市立小・中学校別の建築年度及び建築年度からの経過年数は 9 ページの補足資料をご参照ください。

★4 ページからアンケート調査の設問になります。



### 小・中学校の学級数について

問 5：本調査票を持ち帰ったお子さまが所属する学年は何学級あるか教えてください。

(○は 1 つ)

- (1) 1 学級      (2) 2 学級      (3) 3 学級      (4) 4 学級      (5) 5 学級  
 (6) 6 学級      (7) 7 学級      (8) 8 学級以上      (9) わからない

問 6：1 学年あたりの学級数が少ない小規模な学校のメリット・デメリットについて、あなたの考えをお聞かせください。(調査項目ごとに、あなたの考えに近いものの数字に○を 1 つ)

#### 【小規模な学校のメリット】

調査項目	そう思う	少し思う	どちらでもない	あまり思わない	そう思わない
(例) ○○がしやすい	⑤	4	3	2	1
(1) 子どもたちの人間関係が深まりやすい	5	4	3	2	1
(2) 学校行事や部活動等で子どもたちに個別の活動機会が多くなりやすい	5	4	3	2	1
(3) 異学年間の教育・交流活動の機会が多くなりやすい	5	4	3	2	1
(4) 教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい	5	4	3	2	1
(5) ICT 機器などの授業で使用する教員が一人一人に行き渡りやすい	5	4	3	2	1
(6) 学校と保護者・地域社会が連携した教育活動を展開しやすい	5	4	3	2	1

※上記以外に小規模な学校のメリットがあると思う方はその内容をご記入ください。

( )

#### 【小規模な学校のデメリット】

調査項目	そう思う	少し思う	どちらでもない	あまり思わない	そう思わない
(例) ○○がしやすい	⑤	4	3	2	1
(1) 子どもたちの人間関係や相互の評価などが固定化しやすい	5	4	3	2	1
(2) 多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい	5	4	3	2	1
(3) 集団活動や学校行事に制約が生じやすい	5	4	3	2	1
(4) 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりにくい	5	4	3	2	1
(5) 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい	5	4	3	2	1
(6) PTA 活動等における保護者 1 人あたりの負担が大きくなりやすい	5	4	3	2	1

※上記以外に小規模な学校のデメリットがあると思う方はその内容をご記入ください。

( )

問 2 で「(1)」を選んだ、小学校 6 年生のお子さまがいらっしゃる保護者の方にお聞きします。

問 7-1：今後、少子化の進行により小規模な小学校が増えることが予測されますが、1 学年あたりの学級数は、何学級が望ましいと思いますか。(○は 1 つ)

※町田市立小学校の 1 学年あたり学級数の状況は資料 1 をご確認ください。

- (1) 1 学級      (2) 2 学級      (3) 3 学級      (4) 4 学級      (5) 5 学級以上

※差し支えなければ、その学級数を選択した理由もご回答ください。

(理由： )

問 2 で「(2)」を選んだ、中学校 3 年生のお子さまがいらっしゃる保護者の方にお聞きします。

問 7-2：今後、少子化の進行により小規模な中学校が増えることが予測されますが、1 学年あたりの学級数は、何学級が望ましいと思いますか。(○は 1 つ)

※町田市立中学校の 1 学年あたり学級数の状況は資料 1 をご確認ください。

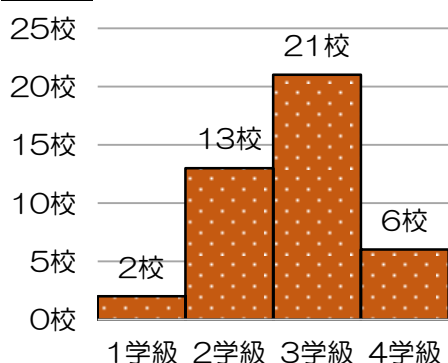
- (1) 1 学級      (2) 2 学級      (3) 3 学級      (4) 4 学級      (5) 5 学級  
 (6) 6 学級      (7) 7 学級      (8) 8 学級      (9) 9 学級以上

※差し支えなければ、その学級数を選択した理由もご回答ください。

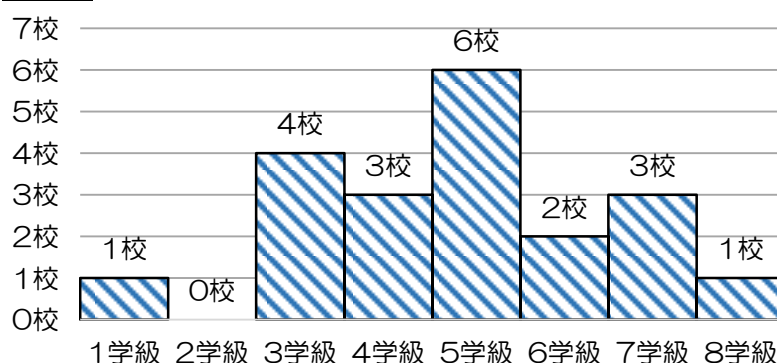
(理由： )

【資料 1】 町田市立小・中学校の 1 学年あたり平均学級数の分布 (2019 年度)

小学校



中学校



### 子どもの通学時間や通学方法について

問 8：本調査票を持ち帰ったお子さまの通学時間に○をつけてください。(○は 1 つ)

- (1) 15 分未満      (2) 15 分以上 30 分未満      (3) 30 分以上 45 分未満  
 (4) 45 分以上

問 9：本調査票を持ち帰ったお子さまの通学方法に○をつけてください。(○は 1 つ)

- (1) 徒歩のみ      (2) 公共交通機関を利用      (3) その他 ( )



問 2 で「(1)」を選んだ、小学校 6 年生のお子さまがいらっしゃる保護者の方にお聞きします。

問 10-1：小学生の片道の通学時間は、どのくらいの時間までが許容範囲だと思いますか。

(○は 1 つ)

※町田市立小学校における最長通学時間の児童の状況は資料 2 をご確認ください。

- (1) 15 分程度      (2) 30 分程度      (3) 45 分程度      (4) 45 分以上

※差し支えなければ、その通学時間を選択した理由もご回答ください。

(理由： )

問 2 で「(2)」を選んだ、中学校 3 年生のお子さまがいらっしゃる保護者の方にお聞きします。

問 10-2：中学生の片道の通学時間は、どのくらいの時間までが許容範囲だと思いますか。

(○は 1 つ)

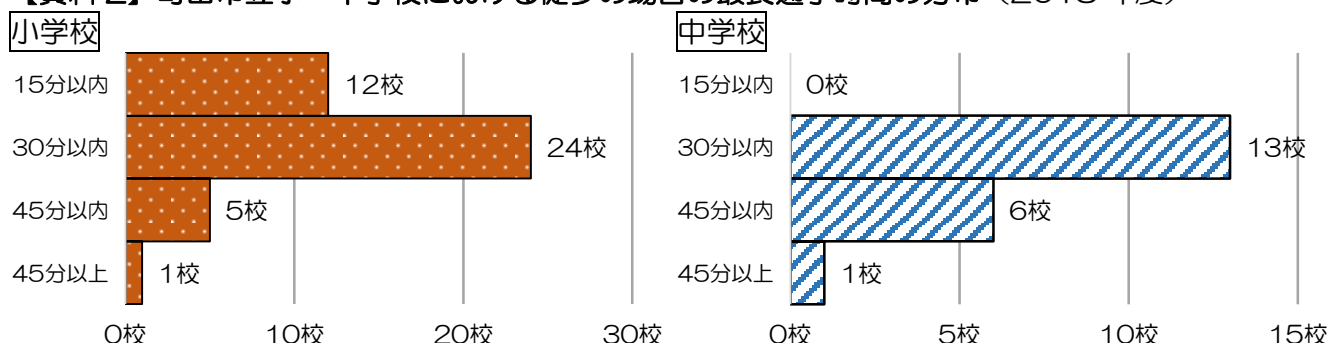
※町田市立中学校における最長通学時間の生徒の状況は資料 2 をご確認ください。

- (1) 15 分程度      (2) 30 分程度      (3) 45 分程度      (4) 45 分以上

※差し支えなければ、その通学時間を選択した理由もご回答ください。

(理由： )

【資料 2】 町田市立小・中学校における徒歩の場合の最長通学時間の分布 (2018 年度)

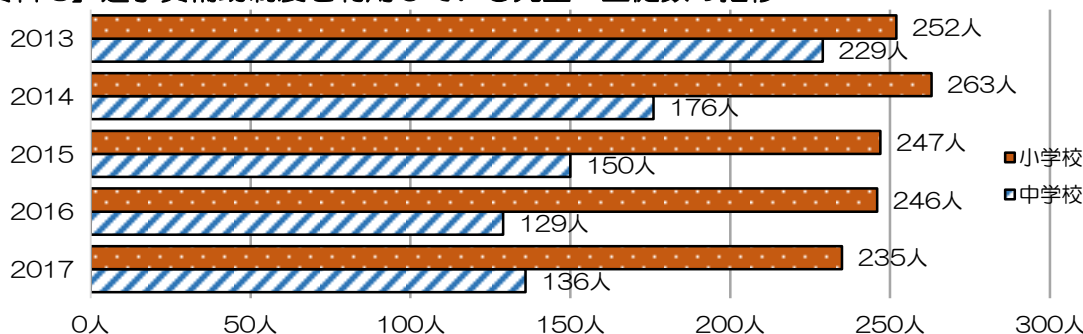


問 11：問 10 でお答えいただいた通学時間の範囲で子どもたちが通学をするために、どのような配慮が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

※町田市立学校の児童・生徒の通学費補助制度\*の利用状況は資料 3 をご確認ください。

- (1) 住所から近い場所にある学校への通学を認める  
 (2) 公共交通機関 (バスなど) の利用を認める      (3) スクールバスを運行する  
 (4) 自転車の利用を認める      (5) 徒歩で構わない  
 (6) その他 ( )

【資料 3】 通学費補助制度を利用している児童・生徒数の推移



\*:通学距離がおおむね小学校 1.5km、中学校 2km 以上で、公共交通機関を利用して通学している児童・生徒の保護者に交通費の一部を補助する制度です (就学指定校以外に通学している児童・生徒を除きます)。

### 学校施設の老朽化について

問 12：3 ページにもあるとおり、町田市の学校施設の老朽化が進行しています。学校施設が老朽化によって発生する問題のうち、重要な問題は何だと思えますか。(〇はいくつでも)

- (1) 災害等で施設が壊れやすくなり、子どもたちの安全が確保できなくなる恐れがある
- (2) 施設が 40～50 年前の考え方で設計されているため、教育内容・方法の変化に対応できず、子どもたちの教育環境を充実させることが難しくなる
- (3) 電気・ガス・水道などの設備が故障した場合に、学校が使用できなくなる恐れがある
- (4) 災害等の発生時に地域の避難施設として使用できなくなる恐れがある
- (5) その他 ( )

問 13：少子化と学校施設の老朽化が進行している状況において、限られた財源の中で学校施設の安全を確保するとともに、未来の教育活動に対応できるよう教育環境を充実させていくためには、どのような考え方で建て替えを進める必要があると思えますか。

(〇は 1 つ)

- (1) 市民の負担が増えても、すべての学校を建て替える
- (2) 地域ごとに建て替える学校を決めて、重点的に投資して建て替える
- (3) 建て替えは行わず、市民の負担が増えない範囲で、改修できる箇所だけ改修する
- (4) その他 ( )

### 通学区域の見直しを検討するうえでの配慮について

問 14：少子化による児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化に対応するために、学校統廃合を含めた通学区域の見直しについて、審議会を設置して検討することを予定しています。検討するうえで、子どもの教育活動や通学などの視点から配慮する必要があることは何だと思えますか。以下の欄に自由にご記入ください。

設問は以上です。ご協力ありがとうございました。

※本調査票は、無記名のまま 7 月 5 日 (金) までに調査票を持ち帰ったお子さまの学級にご提出ください。

## (補足資料) 町田市立小・中学校別の児童・生徒数・学級数推計及び建築年度からの経過年数

小学校	児童数※1			学級数※2			建築情報※3		中学校	生徒数※1			学級数※2			建築情報※3	
	2019	2030	2040	2019	2030	2040	建築年度	経過年数		2019	2030	2040	2019	2030	2040	建築年度	経過年数
1 町田第一	628	676	781	19	21	24	1969	50	1 町田第一	717	652	633	20	19	19	1962	57
2 町田第二	381	466	505	13	14	18	1964	55	2 町田第二	475	529	475	14	15	13	1972	47
3 町田第三	474	376	293	15	12	12	1965	54	3 町田第三	388	343	232	12	11	7	1967	52
4 町田第四	544	489	470	18	16	14	1971	48	4 南大谷	447	511	416	13	14	12	1974	45
5 町田第五	559	562	494	18	18	18	1966	53	5 南	665	649	530	18	19	16	1968	51
6 町田第六	254	281	209	12	12	7	1964	55	6 つくし野	717	841	661	20	23	19	1975	44
7 南大谷	641	634	510	18	19	18	1973	46	7 成瀬台	394	432	304	12	12	9	1979	40
8 藤の台	498	363	277	16	12	12	1972	47	8 南成瀬	520	351	334	14	11	10	1981	38
9 本町田東	226	214	177	8	7	6	1970	49	9 鶴川	594	396	307	16	12	9	2001	18
10 本町田	375	304	183	12	12	6	1977	42	10 鶴川第二	757	591	540	20	16	16	1972	47
11 南第一	628	719	565	19	21	18	1965	54	11 薬師	327	211	164	9	6	6	1970	49
12 南第二	341	315	267	12	12	12	1978	41	12 真光寺	328	222	201	10	7	6	1980	39
13 南第三	376	346	320	13	12	12	1970	49	13 金井	479	369	285	14	11	9	1984	35
14 南第四	509	470	416	17	14	12	1966	53	14 忠生	708	528	403	19	15	12	1973	46
15 つくし野	374	339	240	12	12	10	1970	49	15 山崎	297	191	140	9	6	6	1979	40
16 小川	470	406	316	15	12	12	1974	45	16 木曾	291	202	131	9	6	6	1983	36
17 成瀬台	639	643	483	19	20	17	1974	45	17 小山田	488	267	221	15	9	7	1983	36
18 鶴間	598	606	668	17	18	20	1976	43	18 小山	835	579	380	23	17	12	2011	8
19 高ヶ坂	345	277	190	12	12	6	1978	41	19 堺	570	455	346	16	14	10	1972	47
20 成瀬中央	341	348	223	12	12	7	1979	40	20 武蔵岡	81	46	33	3	3	3	1983	36
21 南成瀬	395	263	241	12	11	9	1980	39	合計	10078	8,364	6,736	286	246	207		
22 南つくし野	710	908	723	23	27	23	1980	39									
23 鶴川第一	796	604	373	24	19	12	2015	4									
24 鶴川第二	517	359	334	18	12	12	1973	46									
25 鶴川第三	466	395	378	14	12	12	1967	52									
26 鶴川第四	564	482	420	18	17	14	1970	49									
27 金井	545	429	323	17	14	12	1977	42									
28 大蔵	750	550	428	23	18	14	1980	39									
29 三輪	554	552	425	18	18	12	1982	37									
30 忠生	464	375	311	15	12	12	1966	53									
31 小山田	318	270	217	12	12	8	1980	39									
32 忠生第三	562	520	382	18	18	12	1974	45									
33 山崎	365	308	249	12	12	12	1980	39									
34 小山田南	588	302	219	18	12	8	1983	36									
35 木曾境川	461	305	184	15	12	6	1977	42									
36 七国山	650	409	279	19	12	12	1975	44									
37 函師	591	447	279	18	13	12	2008	11									
38 小山	816	737	500	25	23	18	1976	43									
39 小山ヶ丘	858	671	495	25	21	15	2004	15									
40 小山中央	801	559	330	24	18	12	2009	10									
41 相原	430	408	343	13	12	12	1968	51									
42 大戸	136	85	50	6	6	6	1983	36									
合計	21,538	18,775	15,068	684	619	526											

本表は、市立小・中学校別の2040年度までの児童・生徒数推計と各校の最も古い校舎を基準とした建築情報をまとめた一覧表です。各項目の読み方については、下記の注記をご覧ください。

## ※1 児童数・生徒数

2019年度…5月1時点の児童・生徒数

2030年度・2040年度…2018年度に行った児童・生徒数推計結果

## ※2 推計にあたっての学級編制基準

小学校:1・2年生は、35人につき1学級、3～6年生は40人につき1学級

中学校:1年生は35人につき1学級、2・3年生は40人につき1学級

## ※3 建築情報

最も古い校舎を基準とした建築年度と建築年度から2019年度までの経過年数